令和８年度前期　宗谷支部活動報告

研究主題

ひと、モノ、じぶんをつなぐ

～協働的な活動を通して、自ら学びを深める体育授業の実践～

１　研究概要

学びは「他者・教材・自己」とそれぞれ向き合い、関わり合いながら行われる。「対話」というと、他者との関わりばかりが焦点化されるが、教材（運動課題、用具、自分の動き）との対話も体育授業の中には豊富に存在している。そういった中で、「できない自分」「この種目が好きな自分」「仲間のことが気になる自分」など、自己との対話も行われる。このように「他者・教材・自己」、つまり「ひと、モノ、じぶん」の相互のつながりを意識し、より多くつながることができる体育授業を目指す。

２　今年度の研究の柱

【「ひと、モノ、じぶん」とつながる体育】

上記の研究概要を念頭に置きながら、体育授業をデザインすることで、一つ一つの活動の目的や意味がはっきりしてくると考える。ただ話し合いをさせる、ゲームをするというのではなく、一つ一つの活動が「ひと、モノ、じぶん」とどう関わり合っているのか。そのつながりは、それぞれ独立しているのではなく、相互に関わり合い、それぞれの矢印が遮断されていないかということを意識しながら、子どもたちがたくさん「ひと、モノ、じぶん」とつながることのできる体育授業を目指したい。そのアプローチとして「協働的な学び」と「探究できる課題設定」という２つを授業デザインの要点とする。

３　夏季授業づくりセミナー

８月 29 日に北海道教育大学旭川校保健体育教育分野の髙瀬淳也教授をお招きして、夏季授業づくりセミナーを実施した。このセミナーのテーマは、「協働的な学びにつながる導入や展開」と「探究できる課題設定」である。理論では研究主題や今年度の研究の柱などへのご助言や探究的な学びの仕掛けやきっかけになる学習課題や発問の仕方を学んだ。また実技では夏休み明けからすぐに実践したくなるような協働的な学びを意識した導入や展開などの豊富な種類の活動を体験しながら学ぶことができた。今回のセミナーは、「ひと、モノ、じぶん」のつながりを実感するとともに、「探究したくなるような発問」をもとに「協働的に学んだ」とても学びの多い充実した時間となった。



